

平成25年度 言語・聴覚・発達障害等の教育に関する
要望書への回答報告

1 日時 平成25年11月22日(金) 11時～12時
2 場所 県庁西館8階第2会議室
3 参加者

県教育委員会側	学校教育課主任指導主事	平沼 裕久
	学校教育課指導主事	市川 典秀
	学校教育課指導主事	伊賀 匡
	学校人事課人事監兼課長補佐	渡邊 聡
	学校人事課指導主事	大根 富木
静言研側	会長 番町小学校長	宇佐美昌好
	副事務局長 番町小	杉山めぐみ
	通級指導・早期教育充実委員会長	
	葦山南小	栗原 宏実

4 要望書への回答並びに情報交換 司会：市川 ◎:教育委員会側 ○静言研側

- ◎通級教室を充実させるために
 - ①24年度との比較で教員を8人増やした。
 - ②同様に、7校で非常勤講師の時間数を増やした。
 - ③言語教室については、国の加配が現在ストップしている状況なので、国に要望していくつもりである。
 - ④LD等については、都市部への偏りが見られるので格差がないようにしたいが、市町が手を挙げてくれない。恒常的に通級児を確保できないからなのか？
 - ⑤中学も希望をとっているが、やはり手を挙げてくれない。
 - ⑥来年度通級教室を作りたいという市町が2つほどある。意識は高まっている。
- 通級を設置させやすい環境整備を
 - ①需要の調査をお願いしたい。
 - ②特別支援センターなど、中学校以外の場所に設置して、来やすい環境作りが重要。
 - ③中学校では、通級に学力を望んでいるが、何のための通級か明確にしたい。
 - ④設置の要望が出たら前向きに考えてほしい。
- ◎サテライトについて
 - ①サテライトを拡充したいが、そのための情報交換をしたい。
 - ②保護者からの評判は良い。
 - ③サテライトでの連携で特別支援教育への意識を変えられる。
- サテライトのプラスマイナス
 - ①移動の負担や安全、在籍校以外の学校へ出向く精神的負担等、教員への負担は大きい。
 - ②自校でできるので児童・保護者の負担が少ない。
 - ③将来性はあると思う。
- 加配の問題
 - ①通級担当教員は加配教員となっているため、通常学級の授業ができない等の壁を壊す知恵を。
- ◎旅費について
 - ①旅費を調べてみたところ市町によって大きく違うことがわかった。
 - ②通級があるからといって、旅費の予算が多くならないのが実態であった。
- 旅費への配慮を
 - ①せめてサテライトの実施校だけでも、旅費の増額を市町に働きかけてほしい。
- 通級への期待は
 - ①インクルーシブ教育が動き出している。通級に何を期待しているのか？
- ◎期待される通級
 - ①よりニーズや期待は高まるはず。
 - ②文科省も在り方を考えているので、国への働きかけを強めていくつもり。
 - ③成果を教えていただくとありがたい。
- 来年度の東海四県大会
 - ①課長には挨拶をお願いしたいので、8月18日は空けておいてほしい。

5 通級教育・早期教育充実委員会長の感想

- ・中学も含め通級教室を増やすには、市町の意識を変えていかなければならない。市町からの要望があれば許可していく方向のようだ。旅費も同様。
- ・サテライトは評価されており今後の展開を期待されている。サテライトの改善という方向で要望していかなければならない。そのためにはより確かな実態把握を。
- ・通級の成果をもっとアピールすべき。
- ・予算や人員、制度等について、国への働きかけを。